

織物祖神 しどりじんじゃ 文布神社

しどりじんじゃ 文布神社とは・・・

文布神社は当組合の前身である東京織物問屋同業組合の事務所（織物会館）完成と創立30周年を記念し、織物の祖神である天羽槌雄神あめのはづちののみかみと天棚機姫神あめのたなぼたひめののみかみの二神を奉齋し、昭和7年11月30日、社殿落成と共に鎮座祭を執行した。

齊主は神田明神神職木村瑞枝氏及び梶ノ森神社宮司小針常治氏、社号を文布神社と定め、と記録（東京織物問屋同業組合覚書）にある。

以降、様態は定かでないが、戦時下を除き毎年12月初旬祝祭が催された。昭和38年4月、東京綿スフ織物卸商業組合と東京織物問屋同業組合が一本化され、東京織物卸商業組合が発足し、昭和47年6月、綿商会館から現東織健保会館へ事務所移転にともない、屋上に社殿を設け、梶森神社に配祀されていた織物祖神文布神社の御霊を同年6月20日新社殿に奉祀するため全役員参列して遷座祭を挙げており、これ以降、「文布神社祭」は業界の繁栄と組合員の彌栄を祈念するため、毎年11月初旬に実施、今日に至っている。また当日は社殿を開放している。

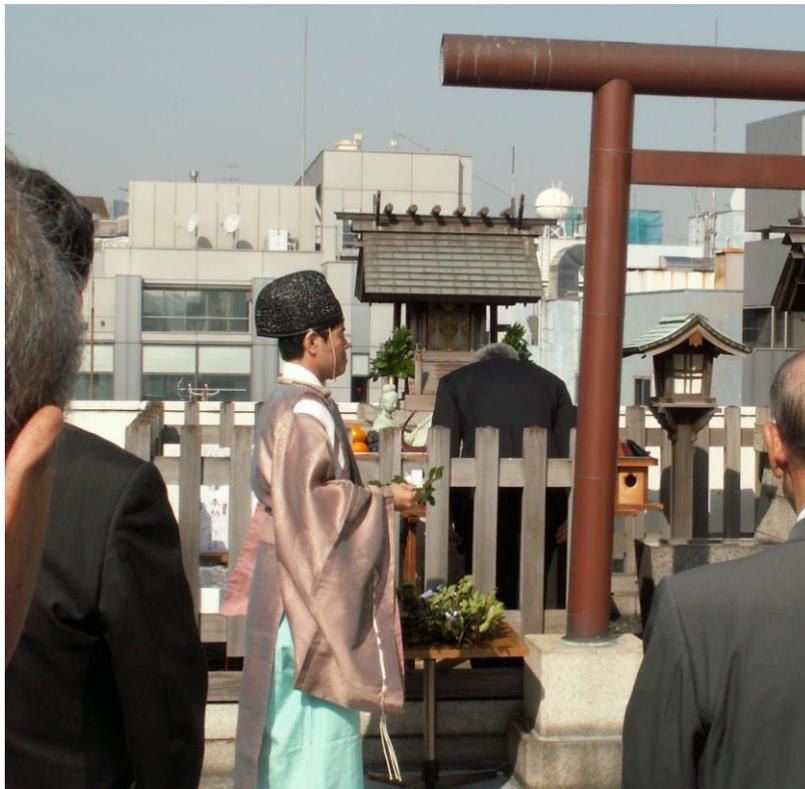
（文布神社神記）

文布（シドリ）神社は、東京織物問屋業界の守護神なり。祭神は、天羽槌雄神（アミノハツチノカミ）、天棚機姫神（アミノタナボタヒメノカミ）と云ひ、天石窟より天照大御神を奉迎の時、男神には文布を、女神には神衣（カミツ）を織らせ給ひし御事蹟ありしかば、天羽槌雄神を、倭文部（シドリベ）の遠祖と稱するに至れり。延喜式神名帳に載れる倭文（シドリ）神社、十一座もありて、古来機業家の尊崇せるところなれば、此の組合にては、常陸国静の郷に座す静神社よりこれを分祀し且つ神代の故事に依りて、更に天棚機姫神を加へ奉り、織物の始神として、二柱を奉齋せしなり。シドリは、シヅオリ、又スヂオリの轉語、即ち織物の謂なり、神紋倭梶（シドリカギ）の葉は、木の葉に文字を書くこと云ふ神秘的慣習に基づき、梶の葉に布の古字・を表はしたり。梶は穀（カヂ）、楮（カヅ）と同じく昔の織物の原料、又布は植物の繊維を以て製織せるものの總稱にして、本邦織物の始なり。漢織（アヤトリ）、呉織（クレトリ）は、唐土より渡来せし織女にして、我が織・の進歩に貢献多かれれば、之れを銅像として神前社側に配したり。

（神田神社神職木村瑞枝）



（東織健保会館屋上にある社殿）



(文布神社祭 開催風景)